

2023 年 8 月 JICA 月次レポート

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）
4. GBN を迎えてプロジェクト視察の実施

1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では 8 月 28 日にチバリンガ準郡の Luna FM より 1 時間のラジオトークショーを実施し、月経時の衛生管理事業の実施において非常に協力的であった各対象校に感謝を伝えた。また、対象校の生徒が布ナプキンを作製できるようになったことや、生徒たちの衛生状況が改善したこと、月経時の衛生管理の問題への男子生徒の参加状況など GBN と行ったプロジェクト視察を通して分かったことの報告を行った。保護者へは布ナプキンを作製するのに必要な布地などの材料を提供することに加え、祝日・休暇中の子どもたちの安全を守るように呼びかけた。



報告を行うプロジェクトオフィサー

ワキソ県では 8 月 31 日 19 時～20 時に Tiger FM より 1 時間のトークショーを実施した。SORAK 代表は事業の概要やこれまでの成果を紹介した後に、各対象校で男子生徒、女子生徒どちらもが布ナプキンを作製できるようになったことや、生徒だけでなく教員や保護者を含め月経時の衛生管理に関する知識が向上したことなど、GBN チームと共にを行ったプロジェクト視察の報告をした。また、事業の活動が成功している大きな要因として市教育長との間に良好な関係を築けていることを挙げ、これに感謝した。費用対効果が高く、環境にも優しい布ナプキンをこれまで以上に活用していくようにリスナーに奨励すると同時に、休暇中の子どもたちの安全を守るように保護者に訴えた。



ラジオトークショー中の SORAK 代表

ブタンバラ県では8月5日のGBNの視察時にVoice of Butendeよりラジオトークショーを実施し、主に布ナプキンの使用を継続すること、月経を適切に管理することについて議論した。トークショーの中で地域住民にGBNチームを紹介し、また、GBNチームは当事業を受け入れ、熱心に取り組んでくれたことに対して地域住民に感謝を述べた。



2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1日6回）
- ワキソ県：Voice Kiryagonja（1日10回）
- ブタンバラ県：Voice of Butende（21回）、Voice of Kikambwe（21回）

3. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）

8月6日、プロモーションセンターにGBNチームを迎え、GBNは我々の活動を視察し、様々な指導をされた。また、布ナプキンの作製過程や梱包方法、保管方法、配布方法などを説明し、地域住民を対象に実施している様々なトレーニングやトレーニングへの出席簿を提示した。

8月7日にはプロモーションセンターにJICAチームを迎え、完成した布ナプキンやプロモーションセンターで行っている様々な活動について紹介した。また、JICAとGBNはその場でトレーニングを受けている女性たちと交流する機会を持つことができ、布ナプキン作成・使用に関するフィードバック等を直接得ることができた。

プロモーションセンターでは、8月中旬に42名に対しトレーニングを行い、550枚のナプキンを生産、442枚を販売した。（3月からの累計 生産1021枚、寄付100枚、販売442枚）



ブタンバラ県のプロモーションセンターでのVOTU、GBN、JICAメンバー

4. GBNを迎えてプロジェクト視察の実施

GBNは対象地域での活動状況を視察するために、7月29日にウガンダに到着した。

以下はモニタリングの詳細である。

ムベンデ県

7月30日、GBNの横田美保と大西麻衣子はムベンデ県に到着した。翌日の7月31日には事前ミーティングをSORAKオフィスで行った後にフィールドワークを実施した。ミーティングではプロジェクトマネージャーがチームを

歓迎するとともに 1 日の流れを説明し、その後 St. Mary's Gwanika 初等学校、Dyangoma 初等学校、Kasasa 初等学校を訪問した。また、その翌日の 8 月 1 日には St Mary's Kiyita 初等学校、Kabowa 初等学校、Ikula 初等学校、Katega 初等学校を訪問し、更に 8 月 2 日には CAWODISA 初等学校、及び Christ the King 初等学校を訪問した。

	
SORAK オフィスでの GBN チーム	集合写真
	
月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (CAWODISA 初等学校)	月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Katega 初等学校)
	
月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Ikula 初等学校)	月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Kiyita 初等学校)
	
月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Kabowa 初等学校)	月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Dyangoma 初等学校)

ワキソ県

8 月 4 日、GBN チームと SORAK チームは市教育長である Lwanga 氏とナンサナ市議会でミーティングを行った。ミ

ーティングの目的は教育長から事業に関するフィードバックを得ること、そして対象校へのモニタリング訪問について教育長に事前に知らせておくことであった。

8 月 4 日、9 日、ワキソ県のプロジェクトオフィサー Sseggirinya Francis、プロジェクトマネージャー Namirembe Aisha、会計アシスタント Lutabi Juma、GBN 事務局長の横田美保、GBN 代表の大西麻衣子で対象校 6 校（Ssanga 初等学校、Ssayi Bright 初等学校、Buwambo C/U 初等学校、Maganjo UMEA 初等学校、Jinja Karoli 初等学校、Lwadda 初等学校、Kitungwa 初等学校）を訪問し、モニタリングを実施した。

	
市教育長との対面	集合写真
	
市教育長とのミーティングの様子	GBN と市教育長との継続的な協力の要請
	
月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Maganjo 初等学校)	月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Lwadda C/U 初等学校)
	
月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Sssanga C/U 初等学校)	月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真 (Ssayi Bright 初等学校)



月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真
(Jinja Karoli 初等学校)



月経時の衛生管理クラブメンバーとの集合写真
(Kitungwa 初等学校)

ブタンバラ県

- GBN チームは 8 月 5 日～6 日に VOTU オフィスを訪問し、事業の状況報告などのミーティングを行った後、Butalunga 初等学校のモニタリング訪問を実施した。モニタリングチームは非常に歓迎された。まず初めに更衣室を含む施設の状況を把握し、その後生徒、女性教員、男性教員、校長と対話する時間を持つ中で、事業の効果や課題を聞き出し、布ナプキン作製のトレーニングでスキルがどこまで習得されているのか確認することができた。

8 月 7 日、VOTU と GBN は JICA からの視察団を受け入れ、ともに Butende Umea 初等学校、Nkokoma 初等学校を訪問した。到着後すぐに施設の状況を確認し、その後月経時の衛生管理クラブのメンバーや教員と議論を交わした。VOTU と GBN は同日に Bule Umea 初等学校、Kayenje 初等学校、Ntolomwe 初等学校も訪問し、未完成であった施設の状況を確認し、事業について議論を行った。



校長の挨拶（Butende 初等学校）



布ナプキンを作製する月経時の衛生管理クラブと手入れされた洗面所（Ntolomwe 初等学校）



学校を訪問している VOTU、GBN、JICA チーム（Butende Umea 初等学校）（左・中）
VOTU オフィスを訪問している JICA チーム（右）



モニタリング訪問時に布ナプキンを作製する生徒たち

ムベンデ県・ワキソ県・ブタンバラ県のモニタリング訪問からの主な気づき

- a) 平均して各校に 2 名ずつ布ナプキン作製に関して熟知している生徒がいた。
- b) 生徒たちは月経中の対処方法を習得していた。
- c) 女子生徒たちは月経の問題に対して恥ずかしがることなく、必要な時には助けを求めることができていた。
- d) 男子生徒は協力的であり、女子生徒をからかうことはなくなっていた。
- e) 当事業で作製したブックレットやマニュアルを教員たちが月経時の衛生管理セッションの中で使用していた。
- f) 月経の緊急時に使用できる緊急用生理用品を学校に設置していた。
- g) ガイダンスやカウンセリングで学んだ方法で体を洗うことで生徒たちの衛生状況が大いに改善した。
- h) Kabowa 初等学校のように緊急用の制服を置いている学校や、Dyangoma 初等学校のように設置を検討している学校もあった。
- i) 必要な支援を受けられるようになった女子生徒たちは月経を理由に授業を欠席することがなくなった。
- j) 自分たちで作製した布ナプキンを使用している学校があることを事業を通して知った学校や家庭はナプキン購入費用を削減できるようになった。
- k) 裁縫のスキルが将来、経済的に自立するための手段であるとする生徒もいた。
- l) 生徒間で積極的に布ナプキンの作製が行われている。
- m) ほとんどの生徒たちが使い捨てのナプキンを買わなくなっていた。
- n) 布ナプキン作製用の布が不足していることが多くの学校で課題であった。
- o) Ntolomwe Umea 初等学校は緊急用の制服を更衣室に設置している唯一の学校であった。

保健省とのミーティング

8 月 10 日に GBN チーム、ブタンバラ県チーム、ワキソ県チームと保健省の担当官でミーティングを実施した。主な目的は、事業の進捗状況を報告し、今後の展開などについて議論することであった。

以下は保健省の担当官からの提案事項である。

- ・ 事業を円滑に運営していくために、事業のプロジェクトメンバーはもちろんのこと、教育省と保健省両方からのメンバーを加えた運営委員を結成すべきである。

- 毎週金曜のミーティングに参加を呼び掛けるために GBN チームはメールアドレスを共有すべきである。また、チームは参加を効果的にするために事業のプレゼンテーションをより明確なものにすべきである。
- 啓発の手段として、月経時の衛生管理クラブに関する話し合いの場を学校が提供するように奨励すべきである。
- 月経時の衛生管理を啓発していくためにはラジオやテレビに加え SNS などを利用していくべきである。
- 各県のリーダーは事業に参加するだけでなく、事業の持続可能を目指し主導的に取り組んでいくべきである。
- 生徒たちのニーズを把握するためにも学校は意見箱を設置すべきである。



保健省の Allan Kasozi 氏とプロジェクトチーム

事業全体の効果的な影響

- ラジオトークショーのリスナーは学校の水準を大いに改善した当事業の活動に感謝を示した。（ワキソ県・ムベンデ県）
- 対象校はモニタリングの実施にとっても協力的であった。（ワキソ県・ムベンデ県）
- 市教育長は今後も継続的に事業に協力していくことを約束し、GBN のイニシアティブに感謝した。
- ミシンの使い方を学ぶことで生徒たちのやる気が向上し、月経時の衛生管理セッションの中でもとても活動的になっていると校長が話した。（Lwadda 初等学校）
- ミシンを使ったトレーニングが男子生徒たちの月経時の衛生管理クラブへの参加を後押しし、男子生徒数が増加している。（Lwadda 初等学校）
- ブタンバラ県のプロモーションセンターでは、購入者はまだ少ないが、布ナプキン販売用のパッケージを改良したことに対し、使用者からも反響があった。
- Bule Umea 初等学校と Ntolomwe Umea 初等学校では、男子生徒も積極的に裁縫やナプキン作製に参加していた。
- ブタンバラ県の地域住民たちは SORAK、GBN、JICA、VOTU といった地域団体や国際的組織と事業を通して交流することができたことに感謝をしており、今後の活動にも期待している。

課題

- モニタリング訪問時、全ての対象校の校長と会うことはできなかった。例えば、Kiyita 初等学校、Ikula 初等学校、Kasasa 初等学校、Dyangoma 初等学校など他の用事があり校長不在の学校では校長代理や他の教員たちが迎えてくれた。（ムベンデ県）
- ミシンの入手はミシンの操作方法を学ぶ上で必須であったが、使用頻度が高くと度々故障してしまうため、修理ができる技術者が常に必要な状況である。

教訓

- より多くのミシンがあればより多くの生徒たちが布ナプキンを作製することができるようになる。

- 常勤のテーラーを雇うことができれば、ミシンの故障にも対応できるため、より多くの生徒がより多くのナプキンを作ることができるようになる。
- ブタンバラ県のプロモーションセンターの布ナプキンの販売促進が期待通りには実施できていない。

提案

- より多くの学生が布ナプキンの作製を行えるように、ミシンを増やす方法を学校は検討する必要がある。
- 常勤のテーラー、技術者（ミシンの修理を行える人）を配置すべきである。
- 他の県の学校の実践を学べるように、学校間での訪問を積極的に行っていくべきである。